

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン 4 種類♪

AC トゥーレーヌ テゼ 2012 (白)

昨年再リリースした2012年の最後のリリース！！相変わらずパワフルだが、更にカーヴでの1年熟成を経て、骨太なミネラルがいく分丸くなり、よりワインに一体感が出てきている！何日かに分けてテイステイングを試みたが、1週間たってもエネルギーな味わいがキープされているところがすごい！

AC シュヴェルニー 2015 (赤)

シュヴェルニーのピノノワールはいつもボノームのブドウがメインなのだが、2015年は何と！鹿と鳥に全て食べられてしまったそう…。そのためピノノワールは全て友人のドルレアンで仕込んでいる。ワインは、果実味がとてもみずみずしく、カカオのようなほんのりビターなタンニンがきれいに溶け込んでいる！軽く冷やして飲んでもOK！

AC トゥーレーヌ・ヴァンクール 2015 (白)

2015年、白が特に素晴らしい！夏は2009年のように暑く乾燥していたせいでブドウの成長に一時ブレーキがかかり、結果的に酸が落ちず、ワインはリッチでボリュームがありながら酸とミネラルが支柱にあるため全く重たく感じない！むしろ、キリッと締まって爽やかな印象さえ与える！さらに、グレープフルーツのような柑橘系の心地よい苦みが食欲をそそる！野菜の味をしっかりと感じられるような温野菜と一緒に合わせたいワインだ！

VdF ヴァンクール 2015 (ロゼ)

2015年は、日照りのためガメいの収量が少なく、前年と比べてカベルネフランのアッサンブラージュ比率が20%高くなっている。ミレジムの的には暑い年だが、例年同様にみずみずしくホッとするような優しい甘みとチャーミングな酸があり、味わいがとても安定している！暑い夏の日にはキンキンに冷やしてアペリティフとして飲みたくなるような、ヴァン・ド・ソワフだ！

ミレジム情報 当主ピエール=オリヴィエ・ボノームのコメント

2012年は今までに経験したことのないくらい厳しい年だった！4月17日にシュヴェルニー帯にマイナス5度の寒気が下り、伸び始めた新芽の9割が霜の被害に遭った…。幸い、副芽がその後から芽吹き、その内の半分くらいはブドウの実を付けてくれたが、今度は5月から7月まで雨が降り止まず、開花も思うようにうまく行かなかった…。その後もミルデューの蔓延などがあり、自社畑は8月の時点で収量の6割減が確実だった…。他のトゥーレーヌブドウ生産者も同様に収量が大幅に落ちるのは予め分かっていた。テゼのソーヴィニオンも4割の減収だが、幸い畑が風通しの良い南向きの斜面にあるおかげで、どのブドウよりも早く完熟した！

2015年は、白は2009年や2005年に匹敵する当たり年だが、ピノノワールにとっては散々な年だった…。春のスタートは雨も比較的多く涼しい気候で、発芽もやや遅れていたが、5月から8月にかけて雨の降らない乾燥した天気が続いた。雨が降らなかったおかげで開花もうまく行き、ブドウの病気はほとんど蔓延することがなかった。だが、夏は日照りの影響で順調に成長していたブドウもバテ気味になり、成長にブレーキがかかり始めた。9月に入り恵みの雨となる50mmのまとまった雨が収穫前に降り、水不足のブドウの渴き

を若干潤してくれた。どのブドウも傷ひとつないきれいな状態にあったが、不幸にも自社畑のピノノワールと一部ピノドニスガ、鹿と鳥の餌食となり収穫する前に動物たちに収穫され全滅…。その他のブドウは無事きれいな状態のまま収穫することができた！ただ、収穫が早かった白のブドウは雨もなく、潜在アルコール度数の高い完熟したブドウが採れたが、後半から天気が崩れ、赤のブドウはほぼ雨の中での収穫となってしまった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2016年…うるう年のミレジムは波乱の年と耳にしたが、そのジंकスどおり、今年はフランス中が大荒れの天候に見舞われており、ボノームのところは4月28日に遅霜の被害に遭ってしまったようだ。

今年は暖冬で冬らしい寒さがなく、ブドウの芽吹きも例年より3週間ほど早かった。例年の傾向から、ボノームは4月初めの時点で霜の心配をしていたが、霜は快晴の日に起こりやすく、ほぼ毎日雨続きだった今年は「霜がない！」と思っていたようだ。だが、4月28日の早朝、4月で唯一快晴だったその日に霜の大打撃を受けた…。この霜の影響で、ピノノワール、ガメイはほぼ全滅…。「昨年は鹿と鳥の被害、そして、今年は遅霜の被害…このままだとピノノワールをいつ収穫したか忘れてしまいそうだ…」とボノームは嘆く。さらに追い打ちをかけるように、6月2日、洪水が襲う。モンティル村の下を流れる小川ヴヴロンが長雨によりじわじわと溢れ決壊し、村の多くの家が床上浸水の被害に遭った…。ボノームの現在使っているカーヴは川よりも高いところにあるので浸水は免れたが、川の近くにある工事中の新しいカーヴは床上10cmほど浸水した。この洪水によりモンティル村周辺は約2日間完全通行止めになり陸の孤島と化した。「洪水によりワインを移動しなければならなかったり、2日間外出できななかったりと悪夢のようだったが、でも決して悪いことばかりではなかった。洪水があったことで、村人同士が助けあい、協力しあい、絆が生れた！」と。それ以降モンティル村の人々の関係は深まり、一体感があるようだ！

6月の終わり現在、気温の上がらない雨の天気が今なお続いており、電話で聞いたところ、現在畑ではミルデューが猛威を振るっているようだ。また、畑が雨でぬかるんでいるためトラクターが中に入られず、ボルドー液散布は人海戦術で行っているが全く間に合っていないとのこと。まだまだ予断の許さない状況の続く2016年だが、苦労を越えて無事収穫に辿り着けるように願っている。

(2016.6.10.のドメーヌ突撃訪問&6.28.の突撃生電話より)